

社会技術研究開発事業
平成20年度研究開発実施報告書

研究開発プログラム

「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」

研究開発プロジェクト名

「地域力による脱温暖化と未来の街 - 桐生の構築」

宝田 恭之

(群馬大学大学院工学研究科, 教授)

1. 研究開発プロジェクト名

地域力による脱温暖化と未来の街 - 桐生の構築

2. 研究開発実施の要約

実施目標

本研究開発プロジェクトでは、桐生市を舞台に地域の伝統や資源を活用しながら、徒歩や自転車を含む公共交通システムが発達した、暮らしやすい低炭素都市を実現することを目標とし、そのための課題抽出および制度設計を行い、それらを踏まえた地域実証試験等を行う。

実施項目

- (1) 低炭素型市街地を実現する交通インフラの持続性のある運用方法の確立のための課題抽出と制度設計を行い、社会実験を通してその実効性を検証する。
- (2) 中心市街地情報インフラ整備による商店街活性化と、マイカー利用の削減のための課題抽出と制度設計を行い、社会実験を通してその有効性を検証する。
- (3) 地域観光資源を活用したグリーン観光の構築のための課題抽出と制度設計を行い、社会実験を通して桐生市に適したグリーン観光を定着させる。
- (4) CO₂削減に直接効果のある地域資源の利用拡大のための課題抽出と制度設計を行い、地域資源の利用拡大を進めるシステムを構築する。
- (5) 市民ならびに観光客のCO₂排出削減活動への参加を促進するようなエコポイントシステム導入のための課題抽出を行い、具体的な制度設計をもとにエコポイント導入実験を実施する。

実施内容

平成20年度は、主に上記の研究開発目標を達成するために5つのワーキンググループを組織し、各5～9回(合計32回)のワークショップを開催し、公共交通、地域商店街、地域資源等に関する実態把握を行った。また、講習会や講演会も実施(計7回)し、市民への合意形成を進める活動を行った。さらに、本研究開発プロジェクトの活動拠点を市内に整備するとともに、桐生SNS(ソーシャルネットワークサービス)上にプロジェクトのコミュニティーを開設し、地域資源情報を共有する仕組みを構築した。具体的な活動拠点としては、桐生市中心街に近い西公民館分館(旧西中学校)にプロジェクト専用の部屋を準備した。この分館は夜間9時まで利用可能であり、夕方からの市民参加がしやすい時間帯で、各WGの会合や講演会を実施できるようになっている。また、この部屋内に桐生市全域の地図が準備されているほか、各種情報が集積されており、参加メンバーが自由に利用することができるようにした。

主な結果

上記の調査の結果、桐生市における公共交通の状況は極めて厳しい状況であり、市内鉄道各社やバスの利用客数向上が急務であることが確認できた。また、現地視察の結果、ノコギリ屋根工場などの重要な近代化産業遺産群が存在するものの、これらの観光資源を活用する仕組みが不十分であることがわかった。特に、観光ルートの未整備や、市内の公共交通が観光資源とリンクしていないなどの問題点が明らかとなった。さらに、マイカー通勤や商店街での購買行動に関する調査の結果、ほとんどがマイカー利用であることが定量的に確認された。これらを踏まえ、市内への大規模なレンタサイクル投入や地域エネルギーを使った電気自動車の実装普及、街歩き観光の推進等が有効であること

が示された。これらによって、今後社会実験を実施するうえで必要となる基礎データを
得ることができた。

3. 研究開発実施の具体的内容

(1) 研究開発目標

研究開発プロジェクトの目標

本研究開発プロジェクトでは、桐生市を舞台に地域の伝統や資源を活用しながら、徒歩や自転車を含む公共交通システムが発達した、暮らしやすい低炭素都市を実現することを目標とする。特に、低炭素型の交通インフラを整備し、コンパクトな低炭素型市街地の提案と低炭素型の街作りを下支えする経済基盤整備を通じて、大幅なCO₂削減を目指す。遂行する具体的な研究開発目標は以下の5つである。

- (1) 低炭素型市街地を実現する交通インフラの持続性のある運用方法の確立を行う。
- (2) 中心市街地情報インフラ整備による商店街活性化と、マイカー利用の削減を行う。
- (3) 未活用の地域観光資源を活用したグリーン観光の構築を行う。
- (4) CO₂排出削減に直接効果のある地域資源の利用拡大を行う。
- (5) 上記研究開発目標にかかわる取り組み全体にエコポイント制度をリンクさせることで、市民ならびに観光客のCO₂排出削減活動への参加を促進する。これによって、環境負荷削減と地域活性化が可視化できるようなエコポイントシステムを提案する。

研究開発プロジェクトの独自性、新規性

市民や観光客にとって歩きやすい街並の整備やレンタサイクルの導入、バス、鉄道などを組み合わせた独自の持続性がある交通システムを確立する。さらに、地域で得られるエネルギーを用いて電気自動車や電動アシスト自転車に投入することで大幅なCO₂削減を目指すための社会実験を準備する。このようなグリーン交通システムの維持のために、市内の森林資源を活用した交通インフラ整備、近代化遺産や野菜マット技術などの観光資源の活用を行うとともに、商店街の情報インフラ整備やエコポイントシステムを組み合わせ、暮らしやすいコンパクトな低炭素都市モデルを提案する。このように本研究開発プロジェクトは、桐生市の特徴を活かすとともに群馬大学工学研究科が有する様々な先端技術の資源を活用した研究開発を桐生市の中で展開・実装していく試みである。さらに、本研究成果を活用するために近隣自治体との連携を進めるとともに、桐生市と同様な都市構造と課題を抱えた自治体に向けて情報発信を行う。

期待される成果・効果

プロジェクトが想定する直接的・量的成果（各事業の定量的具体的アウトプット）

上記の方策により、市内鉄道各社やバスとの連携のもとにマイカーから公共交通観光や公共交通通勤への転換を進め、その具体的な転換量と効果を求める。また、市全域の商圈分析や購買行動の把握を行い、群馬大学の有する情報技術を活用して中心商店街の情報発信実験やレンタサイクル、公共交通連携、エコポイントの導入の効果を定量的に抽出する。また、群馬大学が研究開発を進めている地域連携型のEV開発のプロジェクトとも連携し、これを地域の公共交通に実装して行くことで

大幅なCO₂削減が可能であることを定量的に示す。

プロジェクトが想定する波及的・質的效果（上記定量的アウトプットの中期的波及効果）

公共交通システムが発達した暮らしやすい市街地が形成されることを想定する。特に、現在の公共交通が健全に維持され、EVバスや小型EV、自転車等の低炭素型の交通が大量に導入されている。また、これらを維持管理する社会システム（運営組織、利用者の増加、地域発生電力の供給インフラ等）が機能し、公共交通による高い利便性の確保や生活を支える情報化が進んだ都市が形成されていることから、中心市街地に居住する人口が増加している。これらにより2050年までに1990年のCO₂発生量に対して80%の削減が可能となる低炭素都市の構築へと繋げる。

（2）実施方法・実施内容

平成20年度の研究開発項目は、研究開発目標を達成するために必要となる調査ならびにワークショップによる課題抽出作業、実施に向けての制度設計作業が主な実施項目である。具体的な内容としては、公共交通利用推進、情報共有による魅力的な商店街再生、グリーン観光推進、地域資源活用、および、エコポイントシステムの確立に関するワークショップの実施、情報共有による魅力的な商店街再生、地域資源活用に関する調査、市民の合意形成のための講演会や講習会の企画と実施である。

これらを踏まえて、公共交通利用推進、情報共有による魅力的な商店街再生、グリーン観光推進、地域資源活用、および、エコポイントシステムの確立の5つのワーキンググループが、それぞれ5回～9回のワークショップを開催したほか、各ワーキンググループが1～2回の講演会を行い、市民への合意形成を進める活動を行った。また、桐生市の協力を得て本研究開発プロジェクトの活動拠点を市の中心地に近い西公民館分館内に整備するとともに、桐生SNS（ソーシャルネットワークサービス）上にプロジェクトのコミュニティーを開設し、地域資源情報を共有する仕組みを構築した。さらに、公共交通の状況と市内各駅周辺、ならびに商店街の現地視察を複数回実施した。これらに加えて、レンタサイクルの整備と商店街の情報共有に向けた準備作業も実施し、当初計画した実施項目をほぼ遂行することができた。これらの活動を行政と連携して進めるために、全てのワーキンググループに市役所の関連部署から担当者が参加している。また、商工会議所、商店連盟、鉄道事業者各社からの参加もあり、関連組織が十分な連携のもとに研究開発を行ってゆける仕組みが構築された。

レンタサイクルについてはリサイクル自転車の整備とそれを用いた運用実験の準備のみを当初計画していたが、整備が進んだものを用いて貸し出しの先行実験を行い、利用状況や貸し出し時の問題点抽出を行った。特に、桐生市の観光課が主催する形で、レンタサイクル関連団体協議会が発足し、具体的な運用に向けての討議機関が設置された。さらに、当初計画を前倒しして商店街の実態調査も実施した。

（3）実施内容に対する主な結果・成果

上記のように平成20年度の実施内容は、研究開発目標を達成するために必要となる調査、ならびに、ワークショップによる課題抽出作業、実施に向けての制度設計作業であるが、多くの実情データと問題点が明らかになった。特に、公共交通の状況は極めて厳しい状況であり、市内鉄道各社や市内バスの利用客数向上が急務であることが

明らかとなった。また、地域資源としてノコギリ屋根工場などの近代化産業遺産を中心とした遺産群が重要な観光資源となることが再認識された。しかしながら、これらの観光資源を活用する仕組みとして、観光ルートの開発、駅や公共交通機関での観光情報の発信、市内の観光案内インフラが極めて不十分であることも明らかとなった。また、既存のレンタサイクルが市内観光に頻繁に利用されている実績があることも確認できたが、市内の各駅内にレンタサイクルの案内がないなどの問題点も明らかになった。これに対して駅構内でのレンタサイクル貸出が有効であることが実験により明らかになった。さらに、専門家による講演会から、今後進展が望まれる観光のあり方が街歩き観光であり、これが本プロジェクトの目標と一致することが示されたが、それが実施可能な街並の整備等も今後必要であることがわかった。また、企業におけるマイカー通勤の実態、商店街での購買行動に関するデータも得ることができたが、いずれもマイカーを中心とした郊外への移動を伴うものであることがわかった。具体的には、市内M社（従業員約1400人：マイカー通勤97%、バイク1%、自転車2%）、R社（従業員約600人：マイカー通勤94%、公共交通0%、自転車1%、その他5%）、O社（従業員約1000人：公共交通以外99.6%、公共交通0.4%）となっている。

これらの実態調査の結果を踏まえて、本研究開発目標の全体計画であるグリーン交通システムの整備によるコンパクトな暮らしやすい街の構築のために必要な方策が明らかになった。特に、日々の通勤時におけるマイカー使用の制限と通勤でも利用しやすい公共交通の設置、近距離通勤等に有効な小型EVの開発、鉄道通勤促進のための工業団地と駅の接続バスの運行、通勤定期券の料金見直しなどが有効である。また、公共交通の健全化をはかるために、上記のような通勤時の公共交通利用促進以外に、さらなる地域資源の掘り起こしを積極的に行い産業観光などの価値を高め、マイカー観光から街歩き観光への転換を促す循環観光バスの設置、レンタサイクルの導入、エコポイントの導入による公共交通利用促進、さらには、次世代の小型電気自動車の導入と地域エネルギーの投入などを有機的に結びつけた取り組みが必要であることが示された。特に、エコポイントの導入に当たっては、上記の様々な活動全般にリンクした制度とし、ポイント利用者にとって利用価値の高い内容とする必要がある。

これらの研究成果を踏まえて、第2年度目ではより詳細な精度設計を行うとともに、優先順位を明確にして、社会実験を行う予定である。特に、市内バスに観光循環バスとそれに連動したレンタサイクルとエコポイント制度の試験運用を実施する。また、より詳細な商圈構造の把握とマイカー利用の購買行動を追加調査する。さらに、現在不十分な地域観光資源の掘り起こしと情報発信を行うことにする。また、地域エネルギー投入による次世代の小型電気自動車の活用技術に関する調査と実施に向けた設計を進める。

(4) 開催したワークショップ、シンポジウム、会議等の活動

年月日	名称	場所	概要	参加者数	参加団体
平成20年10月19日	キックオフミーティング	桐生地域地域産業振興センター	本研究プロジェクトのキックオフミーティングを産官学民参加の形で開催した。	160名	大学、行政、企業、商工団体、市民

					団体
平成20年10月20日	第1回全体ミーティング	桐生地域会場産業振興センター	本研究プロジェクトの全体ミーティングを開催した。	119名	大学, 行政, 企業, 商工団体, 市民団体
平成20年10月20日	各ワーキンググループ(以下WGと略記)第1回ミーティング	桐生地域会場産業振興センター	5つのWGの初回ミーティングを開催し, 今後の活動方針を議論した。	119名	大学, 行政, 企業, 商工団体, 市民団体
平成20年10月30日	エコポイントWG, グリーン観光WG, 地域資源WG, 第2回ミーティング	桐生地域会場産業振興センター	エコポイントWGとグリーン観光WG, 地域資源WGが第2回ミーティングを実施し, 今後の活動方針を継続審議した。	34名	大学, 行政, 企業, 商工団体, 市民団体
平成20年10月30日	商店街WG第2回ミーティング	ジョイタウン	商店街WGが第2回ミーティングを実施し, 今後の活動方針を継続審議した。	10名	大学, 商工団体, 市民団体
平成20年11月6日	公共交通WG第2回ミーティング	桐生地域会場産業振興センター	公共交通WGが第2回ミーティングを実施し, 今後の活動方針を継続審議した。	16名	大学, 行政, 企業, 市民団体
平成20年11月7日	第2回全体ミーティング	桐生地域会場産業振興センター	第2回の全体ミーティングを開催し, 各グループの活動方針を報告して, 情報の共有をはかった。	70名	大学, 行政, 企業, 商工団体, 市民団体
平成20年11月7日	商店街WG, エコポイントWG, 第3回ミーティング	桐生地域会場産業振興センター	商店街WGで行う商店街視察等の計画を議論した。エコポイントに関する講演会の企画を行った。	20名	大学, 行政, 企業, 商工団体, 市民団体
平成20年11月19日	地域資源WG第3回ミーティング	桐生地域会場産業振興センター	桐生市の地図上に各種地域資源の整理を行った。	20名	大学, 市民団体
平成20年11月21日	エコポイントWG第4回, 公共交通・グリーン観光合同WG(第3回)	桐生地域会場産業振興センター	各地で行われているエコポイント事業についての調査を行い, 本プロジェクトでの進め方を議論した。公共交通・グリーン観光WGの	28名	大学, 行政, 市民団体

	ミーティング		合同ミーティングを開催し、桐生市の観光客データ、鉄道利用データを整理した。		
平成20年11月24日	第1回WG長会議、堀尾領域統括との意見交換会	群馬大学桐生キャンパス	堀尾領域統括をお招きして、WG長による進捗状況の報告と今後の進め方に関する意見交換を実施。	12名	JST、大学、WG長
平成20年11月24日	エコポイントWG第1回講演会	桐生地域地域産業振興センター	桐生商工会議所、ビットメディア高野氏による講演会「各地で取り組みが広がるエコポイント事業」	30名	大学、行政、企業、商工団体、市民団体
平成20年11月27日	商店街WG第4回ミーティング・商店街視察	中央商店街・芭蕉	中央商店街を視察後に、芭蕉にてミーティングを行い、本年度の調査項目の検討を行った。	23名	大学、商工団体、市民団体
平成20年12月5日	公共交通WG第4回ミーティング	桐生地域地域産業振興センター	駅利用者データの整理と市内各駅の現地視察の計画を行った。	16名	大学、企業、市民団体
平成20年12月9日-10日	第1回領域合宿	東京大学農学部	第1回領域合宿に参加し、各プロジェクトとの意見交換を行うとともに、元水保病資料館館長吉本哲郎氏の「地元学」に関する講演を聴いた。	桐生PJより4名	
平成20年12月7日	地域資源WG第1回講演会	桐生地域地域産業振興センター	地域資源WGの講演会を開催した。群馬森林管理署中岡茂氏「桐生地域の森林の現状と温暖化防止対策」、石巻地区森林組合大内伸之氏「木材流通と地域内消費型システムの構築を目指して」	22名	大学、企業、市民団体
平成20年12月11日	グリーン観光WG第1回講演会	桐生地域地域産業振興センター	グリーン観光WGの講演会を開催した。桐生再生清水宏康氏「歩いて桐生を訪ねる」、JTB清水慎一氏「観光を通じた新しい街づくり」	62名	大学、行政、企業、商工団体、市民団体
平成20年12月	商店街WG第5回ミーティング	ジョイタウン	商店街アンケート調査項目の検討を行った。	14名	大学、商工団体、

12日	ング				市民団体
平成20年12月13日	公共交通WGフィールドワーク	桐生駅 - 新桐生駅 - 相生駅視察	桐生市内各駅周辺の視察を実施し、観光情報、バスとの接続情報等を点検した。	10名	大学、行政、企業、市民団体
平成21年1月7日	エコポイントWG第5回ミーティング	桐生地域地域産業振興センター	講演会で得た情報をもとに桐生におけるエコポイント事業の検討を行った。	12名	大学、行政、企業、市民団体
平成21年1月10日	公共交通WG講習会	桐生地域地域産業振興センター	交通ジャーナリストの鈴木文彦氏による講演	33名	大学、行政、企業、商工団体、市民団体
平成21年1月11日	グリーン観光WG第4回ミーティング	桐生地域地域産業振興センター	講演会で情報をもとに桐生における街歩き観光のあり方について勉強会を行った。	25名	大学、市民団体
平成21年1月11日	第2回WG長会議	桐生地域地域産業振興センター	WG長が集まり各WGの進捗状況の確認と連携した取組の進め方を検討した。	12名	WG長
平成21年1月21日	商店街WG第5回ミーティング、第1回講演会	西公民館分館	商店街アンケート調査項目の継続協議を行った。また、第1回の講演会を実施した。桐生情報NW小保方氏「地方における情報発信の実践」、NTT研究所星合氏「商店街の元気再生」	36名	大学、行政、企業、商工団体、市民団体
平成21年1月22日	エコポイントWG第6回、グリーン観光WG第5回ミーティング	西公民館分館	桐生におけるエコポイント事業と桐生における街歩き観光のあり方について各WGごとに継続協議し、終了後に合同ミーティングを実施して進捗状況を報告した。	10名	大学、行政、市民団体
平成21年1月26日	地域資源WG第4回ミーティング	西公民館分館	地域資源で取り上げるべきテーマの抽出と整理を行った。特に森林資源の整理を行った。	13名	大学、行政、市民団体
平成21年2月9日	地域資源WG第5回ミーティング	西公民館分館	地域資源で取り上げるべきテーマの継続審議と森林資源の整理を行った。	15名	大学、行政、市民団体
平成21	エコポイント	西公民館分	桐生におけるエコポイント	6名	大学、行

年2月19日	WG第7回ミーティング	館	事業の進め方に関する具体的方法の議論を行った。		政, 市民団体
平成21年2月25日	地域資源WG第6回ミーティング	西公民館分館	地域資源で取り上げるべきテーマの継続審議と森林資源の整理を継続して行った。	17名	大学, 行政, 市民団体
平成21年2月28日	グリーン観光WG第1回フィールドワーク	善光寺・小布施	善光寺と小布施の街づくりについてバス視察を行った。バス内でも講演会のDVDを放送	29名	大学, 行政, 企業, 市民団体
平成21年3月3日	第3回WG長会議	群馬大学桐生キャンパス	WG長が集まり各WGの進捗状況の確認し, 平成21年度の進め方について議論した。	10名	WG長
平成21年3月6日	第3回全体ミーティング	桐生地域地域産業振興センター	半年間の取り組み状況を参加者に説明し, 平成21年度の進め方について議論を行った。	36名	大学, 行政, 企業, 商工団体, 市民団体
平成21年3月9日	エコポイントWG第8回ミーティング	西公民館分館	桐生におけるエコポイント事業の進め方に関する具体的方法の議論を行った。	8名	大学, 行政, 企業, 市民団体
平成21年3月10日	地域資源WG第7回ミーティング	西公民館分館	平成21年度の地域資源WGの進め方を議論した。	11名	大学, 行政, 市民団体
平成21年3月11日	第1回全体講演会	桐生地域地域産業振興センター	桐生SNSに関する講演会を実施した。桐生地域情報NW塩崎泰雄氏「桐生SNSとそのJSTプロジェクトでの活用について」	17名	大学, 行政, 企業, 商工団体, 市民団体
平成21年3月14日	第1回領域シンポジウム	東京墨田区国際KFCホール	第1回領域シンポジウムに参加して, 地域に根ざした-80%へのシナリオづくりとまちづくりに関する講演を聞くとともに, 各プロジェクトの進捗状況を情報交換した。	桐生PJより4名	
平成21年3月18日	グリーン観光第2回フィールドワーク	桐生市内ノコギリ屋根建築群	桐生市内にあるノコギリ屋根建築を中心に実際のまち歩き観光を実施し, 状況確認を行った。	15名	大学, 市民団体

平成21年3月23日	領域総括との意見交換会	JST社会技術開発センター	平成20年度の活動進捗を報告し、平成21年度の進め方について堀尾領域総括と意見交換を行った。	桐生PJより2名	
平成21年3月26日	公共交通WG第5回ミーティング	西公民館分館	平成21年度の公共交通WGの進め方を議論した。	8名	大学，市民団体
平成21年3月30日	エコポイントWG第9回ミーティング	西公民館分館	平成21年度のエコポイントWGの進め方を議論した。	10名	大学，行政，企業，市民団体

(5) 研究開発実施におけるその他の活動

エコポイントワーキンググループの活動として、自転車利用に関するアンケート調査を実施した。実施日は、休日（平成21年1月11日）と平日（平成21年1月15日）とし、それぞれにおける買い物時の自転車ならびにマイカー利用に関する調査を行った。（実施場所：生協東久方店）

商店街ワーキンググループの活動として、桐生市内の商店に対して経営実態調査を実施した。実施協力先は、桐生市内商店組合に登録している約500店舗を対象とした。（回収率40%）。現在詳細な解析を行っている。

4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

エコポイントワーキンググループが中心となって、レンタサイクルの貸し出し実験を行った。実施場所は、桐生駅、新桐生駅、西桐生駅の各駅で、県主催のイベント「シルクカントリーin桐生」（平成21年2月21日-22日）の実施にあわせて実施した。走行距離等のデータを取得したほか、アンケート調査も実施した。

また、桐生SNS（ソーシャルネットワークシステム）上にプロジェクトの専用コミュニティを開設し、地域資源情報を共有する仕組みを構築した（2009年02月1日開設、<http://sns.kiryu.jp/>）。これを用いて、各ワーキンググループの取り組みや地域にある各種資源情報をGoogleMap上に位置情報と合わせて表示することが可能となった。今後、地域情報の共有化を進める仕組みとして利用予定である。

さらに、群馬大学情報工学科の学生と地域商店街の店主が共同して情報発信を行う「情報デザイン」の授業を企画した。これは、平成21年度からの正規授業として設置されている。

5. 研究開発実施体制

(1) グリーン交通システムグループ

リーダー名 佐羽宏之（2015年の公共交通をつくる会、会長）

実施項目

グリーン交通システムによるコンパクトでエネルギー消費が少なく活力のある

低炭素型都市の実現

(2) 低炭素型の街作りを下支えする経済基盤整備グループ

リーダー名 根津紀久雄(NPO法人北関東産官学研究会, 会長)

実施項目

地元資源の活用による街並やインフラの整備

6. 研究開発実施者

グリーン交通システムグループ

氏名	所属	役職
宝田恭之	群馬大学大学院工学研究科	工学研究科長
佐羽宏之	2015年の公共交通をつくる会	会長
関 庸一	群馬大学大学院工学研究科	教授
天谷賢児	群馬大学大学院工学研究科	教授
細川宜秀	群馬大学大学院工学研究科	講師
日高正人	パシフィックコンサルタンツ(株)	技術課長
渋澤香代	群馬大学大学院工学研究科	研究補助員

低炭素型の街作りを下支えする経済基盤整備グループ

氏名	所属	役職
根津紀久雄	NPO法人・北関東産官学研究会	会長
志賀聖一	群馬大学大学院工学研究科	教授
北川紘一郎	都市風景研究所, 無鄰館	館長
小竹裕人	群馬大学社会情報学部	准教授
野田玲治	群馬大学大学院工学研究科	准教授
鵜飼恵三	群馬大学大学院工学研究科	工学副研究科長
渡邊智秀	群馬大学大学院工学研究科	教授
岩崎春彦	群馬大学共同研究イノベーションセンター	客員教授
中村義則	NPO法人・北関東産官学研究会	研究補助員

7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 論文発表

(国内誌 0 件、国際誌 0 件)

(2) 口頭発表(国際学会発表及び主要な国内学会発表)

招待講演 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

口頭講演 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

ポスター発表 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

(3) 新聞報道・投稿、受賞

新聞報道・投稿

- ・ 桐生タイムス(2008/5/17)：プロジェクト発足前の会合内容記事
- ・ 桐生タイムス(2008/6/5)：本プロジェクトをJSTに申請する記事
- ・ 桐生タイムス(2008/6/13)：プロジェクトへの参加を検討している市民団体の記事
- ・ 桐生タイムス(2008/9/3)：本プロジェクトがJSTに事業採択された事を伝える記事
- ・ 東京新聞(2008/9/4)：プロジェクトの目標・内容等の記事
- ・ 日本経済新聞(2008/9/4)：プロジェクトの目標・内容等の記事
- ・ 上毛新聞(2008/9/4)：プロジェクトの目標・内容等の記事
- ・ 読売新聞(2008/9/4)：プロジェクトの目標・内容等の記事
- ・ 桐生タイムス(2008/10/15)：プロジェクトへの市民参加を促す記事
- ・ HiKaLo news 第29号(2008/10/15)：本プロジェクトがJSTに事業採択された事を伝える記事
- ・ よみうり進学メディア大学研究号vol.4(2008/10)：プロジェクトの意義・目的等を説明した記事
- ・ 上毛新聞(2008/10/19)：プロジェクトキックオフの案内記事
- ・ 上毛新聞(2008/10/20)：プロジェクトキックオフの記事
- ・ 桐生タイムス(2008/10/20)：プロジェクトキックオフの記事
- ・ ぐんま経済新聞(2008/10/23)：プロジェクトキックオフの記事
- ・ 桐生タイムス(2008/10/31)：グリーン観光WG,エコポイントWG,地域資源WG,商店街再生WGのワークショップ記事
- ・ HiKaLo情報誌vol.8(2008/10/31)：プロジェクトに対する宝田代表の意気込み
- ・ 桐生タイムス(2008/11/11)：プロジェクトの各ワーキンググループ活動報告記事
- ・ 桐生タイムス(2008/11/14)：プロジェクトのきっかけを雑誌記者が一言コラムに記載
- ・ 桐生タイムス(2008/11/22)：エコポイントWG講演会の開催案内
- ・ 桐生タイムス(2008/11/25)：プロジェクトの概要と各WGの活動内容を伝

える記事

- ・ 桐生タイムス(2008/11/28)：商店街再生WGの行ったフィールドワークの内容記事と地域資源活用WG講演会の案内
- ・ 桐生タイムス(2008/12/12)：グリーン観光・公共交通WGの講演会記事
- ・ 桐生タイムス(2008/12/27)：プロジェクト全体に関する記事
- ・ HiKaLo news 第30号(2008/1/16)：プロジェクト概要の記事+グリーン観光・公共交通WGの講演会記事
- ・ 桐生タイムス(2009/1/22)：商店街再生WG講演会に関する記事
- ・ 桐生タイムス(2009/1/24)：グリーン観光・エコポイントWGのミーティング内容を伝える記事
- ・ HiKaLo技術情報誌第32号(2009/1/27)：地域資源活用WGとグリーン観光・公共交通利用促進WGの各講演会に関する記事
- ・ 桐生タイムス(2009/2/19)：エコポイントWGのレンタサイクル実験に関する記事
- ・ 桐生タイムス(2009/2/22)：防犯イベントでのプロジェクトPRに関する記事
- ・ 桐生タイムス(2009/2/23)：アースディでの竹垣イベントに関する記事
- ・ 桐生タイムス(2009/3/6)：グリーン観光WGフィールドワークへ参加した方の投稿文
- ・ 桐生タイムス(2009/3/9)：群馬大学工業会総会での宝田代表によるプロジェクト講演に関する記事
- ・ 桐生タイムス(2009/3/18)：群大が行う街中授業に対してのプロジェクトへの生かし方も含めた記事
- ・ 桐生タイムス(2009/3/23)：アースディ竹垣イベントでの竹垣デザイン選考の様子を伝える記事
- ・ 桐生タイムス(2009/3/23)：グリーン観光WGフィールドワークの記事
- ・ 桐生タイムス(2009/3/27)：アースディ竹垣イベント設置に関する記事
- ・ 桐生タイムス(2009/3/28)：宝田代表の脱温暖化プロジェクトに関する講演記事

受賞

なし

(4) その他の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

書籍

- ・ 三浦展, 神奈川大学曾我部昌史研究室編著, 商店街再生計画 - 大学とのコラボでよみがえれ! , 「群馬大学×桐生市エコ活動と町おこしを同時進行する」(株)洋泉社, p104, (2008年12月) .

ウェブサイト構築

- ・ サイト名：「地域の根ざした脱温暖化・環境共生社会」「地域力による脱温暖化と未来の街 - 桐生の構築」, URL：
<http://www.tech.gunma-u.ac.jp/CO2PJ/index.html>, 立ち上げ 年月：平成20年10月

研究開発成果を発信するためのシンポジウム等の開催

- ・ 第5回市民活動推進大会 地域づくりで脱温暖化 ，平成21年3月21日，桐生商工会議所ケービックホール

学会以外のシンポジウム等への招へいによる講演実施

- ・ 北関東産官学研究会講演会，「脱温暖化社会システム構築への挑戦」，平成21年3月19日，群馬県太田市

その他の活動

- ・ 群馬大学工業会理事会，群馬大学工業会，卒業生が会員である群馬大学工業会で本プロジェクトの内容説明，平成20年11月14日
- ・ 群馬大学工業会桐生支部総会，群馬県桐生市プリオパレス，群馬大学のOB会である工業会において本プロジェクトに関する講演を実施，平成21年3月7日
- ・ NPO法人森林と住まいのネットワーク理事会，群馬県桐生市しんまちサロン，本プロジェクトに関する説明と協力依頼，平成21年3月24日
- ・ FM桐生における本プロジェクトの発信，おしゃべりサンデー（13:00～14:00），各WG長ほか交代で出演，平成20年10月26日，11月9日，11月23日，12月14日，平成21年1月11日，1月25日，2月8日，2月22日，3月8日，3月22日
- ・ プロジェクトの概要をまとめたリーフレット「みらいのまち桐生のイメージ」を作成（6ページ），平成21年3月